

令和4年度第1回 尼崎市文化ビジョン会議 議事録(要旨)

日時	6月29日(水) 13:00~15:00
場所	尼崎市役所 北館4階 4-1会議室
委員	上野委員、大永委員、大橋委員、坂上委員、武元委員、福田委員、古川委員、善見委員 ※欠席:原委員
アドバイザー	尼崎市顧問
事務局	文化・人権担当部長、文化振興課長、文化振興課職員4人
オブザーバー	(公財)尼崎市文化振興財団 常務理事、事務局長

1 開会

- 部長挨拶
- 事務局紹介
- オブザーバー紹介
- アドバイザー紹介

2 委員紹介

(省略)

- 上野委員をコーディネーターに選出

(事務局:課長)

(会議運営について)

- ① 傍聴:希望者には傍聴を認める。市のHPで告知する。(本日は0人)
- ② 会議記録:録音に基づき議事録案を作成し、委員確認後に確定する予定。
- ③ スケジュール:(資料2参照)今回を含め4回程度開催予定。11月頃には改定案を作成、市民に公開しパブリックコメントを実施し改定を行う。なお、6月14日には市民意識調査(アンケート)発送しており、7月中に集計予定であるので次回は結果をお示ししたい。

3 尼崎市文化ビジョンとこれまでの取組

(コーディネーター)

議事に入る。「事務局より尼崎市文化ビジョンとこれまでの取組」について説明を。

(事務局)

(資料説明)

- ・現行ビジョンの紹介
- ・資料3 尼崎市文化ビジョンの取組総括(平成29年度~令和3年度)

(コーディネーター)

5年前に文化ビジョンを策定する時から委員として関わっており、市役所、文化振興財団、アーティストも一生懸命取り組んでいるが、市民生活の隅々まで行き届いていないことが多々ある。これからは自分たちの生活と直結したところで美しいもの、いい音楽、パフォーマンスなどに触れられるようなことも必要だと思う。

また、文化は高尚なものばかりではなく日常生活そのものがひとつの文化であり、尼崎らしい文化活動をするにはどうしたらいいか、皆さんのご意見を伺えたら。

では引き続き、事務局より「改定のポイント」について説明を。

4 尼崎市文化ビジョン改定趣旨

(事務局)

(資料説明)

・資料4 尼崎市文化ビジョン改定趣旨

(コーディネーター)

この資料4にこれから4回集まって議論し文化ビジョンを改定していくポイントが示されていると思っただきたい。

5 文化ビジョンに期待すること(意見交換)

(コーディネーター)

会議の進め方は、今日は第1回目なので、皆さんの立場から普段考えていること、自分の想い、改定への希望など仰っていただき、次回の会議で事務局が内容整理したものを提示し、それを基に文化ビジョンにどう反映していったらよいか、議論していくことになる。

皆さんの個人的な想いで自由な発言をいただきたい。

(委員)

毎年 11 月に「ミーツ・ザ・福祉」というイベントがあり、そこで障害のある人・ない人いろんな人が新喜劇をする「ミーツ・ザ・新喜劇」をやっている。新喜劇では、目の見えない人が目の前にいる役所の職員さんの顔が「中の下や」とか、自分の障害も含めて明るく表現するもの。障害のある方はこれまでなかなかスポットが当たらず、自分が一般の人よりも一歩後ろという価値観があった、という方もいて、演劇や舞台に立つことで自分を表現できるのがすごく幸せだ、と聞いている。今年もまた新喜劇には協力したい、と思っている。

自分たちが活動している生涯学習プラザでなく、他の地区に出向くと、「こんな人がいるんだ」「こんなイベントがあるんだ」と知ることができる。それがきっかけでまた自分のプラザでもやっていっている。ビジョンを具体的な内容・ビジョンにすることで、市民の方がわかりやすくなるのかな、と思った。

不登校の子どもたちにも文化に触れるきっかけが欲しい。

尼崎の夜間中学に所属しており、自分が住む尼崎のことを調べたりもしている。こうした方にも

スポットが当たればいいなと思う。尼崎には兵庫県内でも数少ない夜間中学があることを誇りに思っており、文化ビジョンを通して知ってもらえたらと思うし、協力したい。

障害がある人ない人関係なく、皆が文化に触れる機会があればいいなと思う。文化や芸術の賞を受賞するのも健常者の方というのがよくあると感じていて、障害のある方にも自信がつくような機会が増やせたらと思う。

(コーディネーター)

大切なこと・課題がたくさん含まれている。生涯学習プラザ同士の交流、障害のある人もない人も文化を楽しむ機会均等等、今後皆さんと話し合う題材にしたい。

(委員)

子どもが小学生や幼稚園の時には、バスや電車を使い親子で夏休みのイベントに出かけるのは気軽には難しいので、校区や家から近い生涯学習プラザであれば気軽に参加できるのではないかな。コロナ禍で人が集まるのは難しい時期が続いたが、幼稚園や小学生の間にたくさん参加していたら、子どもにとってイベント参加や生涯学習プラザが身近で入ってきやすいものになる。全然そういうものを経験していないと中学生や高校生になって、よほど自分に興味があるものがない限りなかなか生涯学習プラザに行ってみようとならない。幼稚園、小学校という時期が一番大事ではないか。中学生になった私の子どもは、今でも近所の夏祭りで金魚すくいをした、スーパーボールすくいをした、という話をしたりする。地域でのいい経験をしてきたなと思う。内容がよかったとしても遠かったらハードルが高く、主催者側は大変だと思うが同じ内容でも各地区ですて欲しい。

子どもが小学校2年生の時、授業で露の団姫さんの落語があり、家に帰ってきてうどんの食べ方がとても美味しそうだったことを話してくれ、「本当に食べているように思った」と感想に書いていた。日常でなかなかできないような体験だと思う。そういう体験が幼稚園・小学生時代は大切に、親子で参加できる機会が身近で増えて欲しい。

(コーディネーター)

幼稚園・小学生の時期からに色々なものに触れるのは大事ということです。

(委員)

「音楽のあるまちあまがさき」に、まちのイメージが変わるような文化がもっと広がって欲しい。例えば、高槻ジャズストリートは20年近くになるが、市民一体になって取組み、ゲストも素晴らしく、そういった目玉的なものができたらいい。ジャズが一番そういうものに適しているかと思う。

尼崎のイメージが変わるような文化都市の発案をしたい。

(委員)

資料やお話を聞いて思うのが、吹奏楽という話が出るがシンガーソングライター、弾き語り等の催しが少ない。先ほどのお話のジャズストリートは、尼崎であつたらいいなと前から思っていた。

コロナになってライブ活動ができなくなったと話したが、動画配信はその場に行かずとも見られるし、技術も発達し、いい部分もある。ただ、演者としては配信ライブというのはモチベーションが下がる。やっぱり対面式のライブが一番好き。

尼崎生まれにとってアルカイクホールはすごく大きな憧れの場所であるので、ここで音楽イベントができたらと思っている。個人的に市内のライブハウスで「尼フェス」という活動をしていたが、徐々に大きくして、いつかアルカイクホールでやる、というのが夢。個人では限界があるので、まちが一緒になってできたらと思う。

(コーディネーター)

たいへん具体的。実際にリモートよりリアルの方が面白い。早くコロナが収まることを期待。

(委員)

一番思うのは、コロナ、自粛しすぎなくてよいという感じを出して欲しい。その辺の空気感をつくっていくのは大事。オフラインでしか発生し得ないことを大事にしたいと感じる。

生涯学習プラザが拠点になるのはいい。生涯学習プラザには人材が眠っている。もともと公民館で水墨画を習っていて何十年もするうちに凄い作品を作って賞をもらった人もいる。陶芸をやっていたおばあちゃんがしんどいから辞めちゃったと聞いたがもったいない。生涯学習プラザではいい活動ができているので継続して続けて欲しい。

生涯学習プラザでは学んだことで、料金を徴収してはいけないと聞いているが。

(オブザーバー)

以前は講師が運営する習い事・教室は利用できなかったが、今は改定されて、文化・教養の講座は利用できるようになっている。

(委員)

例えば、患者さんや地域の色々やっている方を集めて、その人同士が繋がれる場として、生涯学習プラザを借りてイベントをやりたい。ブースを作り、ブースでお金の徴収もするようなイベントをしたいのだが。

(事務局)

イベントの一環としての販売は条件付きで可能。また、営利団体の利用は2倍の使用料で利用できる。

(委員)

ただ、イベントでもコロナだから嫌だという人がいる。今年も武庫地区の祭り開催にあたりアンケートを取ったが、まだ中止となった。そろそろ空気感を変えていきたい。

(コーディネーター)

地域に眠っている人・モノを掘り起こしてつなぎ直すことはとても大事なこと。生涯学習プラザで営利利用はできないのか。

(事務局)

営利団体の利用はできるが、通常よりも予約開始が1か月遅れになると、使用料が2倍となる。

(委員)

ビジョンを見て、改めて尼崎はすごく多様性があり可能性に満ちた面白い街だなと感じる。

取組の柱で「市民の芸術体験を支える」、「特に若い人が本物の芸術に触れる機会」とあるが、ピッコロシアターでは兵庫県主催で「わくわくステージ」と称し、中学生のための演劇体験事業をしている。鑑賞代はかからず、プロの劇団のお芝居を大ホールで鑑賞し、15分程度のバックステージ解説もついた事業で、この5～6月にかけて県内18校約2,000人が参加している。ただ、尼崎市内から参加が少なく、現場の先生に聞いてみると、その事業を知らないということがある。周知広報の仕方にも問題があると思うが、ピンとこないような現場との掛け違いがあるのかなと感じる。せっかくの機会なので活用して欲しい。この「わくわくステージ」に字幕や音声ガイドを付けて上演し、そうすることで聴覚・視覚に障害のある特別支援学校の生徒さんにも来ていただけた。

先ほど、「不登校の方にも文化に触れる機会を」という話があったが、公立劇場の仕事というのは、劇場に来る方はまだ安心で、劇場に来られない方を想像することが大事。そういう人へのアウトリーチが難しく、この文化ビジョンの中で考えていけたらと思う。

(コーディネーター)

現場の悩みである。それを解決していく時にこの文化ビジョンがうまく使えるとよい。

(委員)

以前に12年間、市の社会教育委員会議の委員、また並行して公民館の運営審議会の委員をしていたことがあり、その時に思っていた理想の姿が反映されてきているので嬉しい。

公民館は、学習の場であり、また発表の場として公民館まつり等も行われていた。ただマンネリ化もあり、施設の活用のされ方が問題になっていた。令和元年度から公民館が生涯学習プラザへ移行し、生涯学習プラザを拠点として、文化が人をつなぐ場所になる、市民の集まる場所になることを期待している。市内に12箇所あるプラザをいかに活用するか、そこに来的人が多くなり互いに顔見知りになり、他のプラザにも広がっていくことで、文化を携えた市民が情報交換をする館となるように期待している。

(コーディネーター)

文化活動の拠点としての生涯学習プラザは大事。生涯学習プラザの年間の実施内容の資料はあるか。

(事務局)

各 6 地域課が生涯学習プラザを使いイベント・講座をしている。その内容はまとめている。また、付属機関である生涯学習審議会でも地域課・生涯学習プラザの取組みをチェックしている。

(コーディネーター)

次回、生涯学習プラザ関連の資料を参考に提出して欲しい。

また、今日ご欠席の原委員の意見を事務局が事前にヒアリングしているので紹介して欲しい。

(事務局)

いただいたご意見のポイントとしては 3 つ。

- ① 施策分野が「地域コミュニティ・学び」に位置づけられたことで、すそ野が広がるのはよいが、それに偏り、将来芸術家を志す次世代が、耳や目を肥やす機会が少なくなることを懸念する。
- ② 地域の身近な場所であっても、良質なものを提供していくことが大事。
- ③ 芸術家の創作活動の過程に出会うことで子どもに刺激がある。京都では芸術大学との協働で、現役の公立小学校の空き教室をアーティストインレジデンスとして活用する事例がある。生涯学習プラザに限定せず、まちの様々な空き地的な場所で、美術だけでなく、音楽、伝統芸能他でもそういったクリエイターと出会う機会が増えれば、まちの文化の活力が伝わるのではないか。

(コーディネーター)

補足説明として、アーティストインレジデンスとは、アーティストの方に滞在型でその施設で制作を行い発表してもらおう仕組みのこと。大がかりだと宿泊施設を用意したり、そこまででなくても公民館等を使ったりして芸術家が芸術活動をするというもの。

他の委員の方の意見を聞いて追加の意見等あれば。

(委員)

尼崎の森でライブフェスができれば、泉大津フェニックス・フェスのようなことをするにはよい場所だと思う。

音楽を通じて、自分が参加したら尼崎がちょっとよくなるというのも面白いと思う。入場料無料で、そこで物を買ったら震災への支援となる「神戸チャリティライブ」のような取組。

「尼崎だから夢がかなう」「尼崎だから〇〇できる」…〇〇の部分皆さんと考えたい。

あとは、昔の人の話を聞く場が欲しい。85歳の父が交通安全の活動をしていて尼崎市ブランドブック第1弾に登場したのだが、昔の話を聞くととても面白い。尼崎市ブランドブックと協力し、尼崎で面白そうな人を主人公に昔話をしてもらおう。「生きている」尼崎の文化の人の話を面白く聞くイベント場があったいいなと思う。

(委員)

みんなのサマーセミナー(サマセミ)の日はいつもピッコロシアターのファミリー劇場と重なって

しまい、参加が難しいが、尼崎には面白く、ポテンシャルの高い人がいっぱいいる、というのがサマセミでわかる。「扇町 Talkin' About」(大阪ガスの文化施設『扇町ミュージアムスクエア』界隈のカフェやバーで継続的に開催されたトークイベント。テーマを決めて自由に喋るしゃべり場)のようなことがまちの中で機会があってもいいのかな、と思った。

(コーディネーター)

船木アドバイザーは、ビジョン改定に向けて今日の意見を聞いてどういう印象をもったか。

(アドバイザー)

この10年、実態に合わせて、まちの形・政策が変化してきた。総合計画の話や並行してシティプロモーション推進指針、生涯学習等、様々なことが文化の領域にクロスすると感じる。同様の視点がほかの部署の事業でもあり、まさに暮らしそのものを捉えた時にはそういう形になる。行政の中が役割分担論で切り分けるのではなく、相互関連していきながら一緒になって何かを成していくという状態をより進めていければ、まちとしていい形になる。

文化には「日常の営みから生まれる文化」と具体的な「文化活動」として語られる文化、2つの言葉の意味があり、両方をうまく文化ビジョンに取り込めるといいな、と感じた。他市はどうしても狭義の文化に偏りがちな所も多く、尼崎らしさの中でその両方の面を含め合わせて、委員の皆さまとよいものを作っていけたらと感じた。

(コーディネーター)

いくつか共通のポイントを挙げたい。ご近所の文化力、生涯学習プラザ等を使った人の交流・文化活動をどうやって高めるかということ。地域にある歴史や営みを掘り起こし、それを学ぶこと。そして、文化は狭義の芸術文化と日常生活の文化、2つある。どちらかに偏らないように。芸術文化は日常生活に溶け込むことで初めて皆さんに気づきを与えるもの。あまり切り分けなくて尼崎らしい、一体化した文化のレベルを共有していくというスタンスで新しい文化ビジョンができるとよい

感想としては、今日は、ご近所の文化力の事例に感動した。有意義な意見をいただいたので、その意見を少し整理し、文化ビジョンに反映するにはどうしたらいいか事務局も考え、2回目はその意見を基に再度ご意見を伺い、そういう積み重ねを数回やって、改定案を作りたい。次回の日程はどうするか。

(事務局)

8月に第2回目を考えているが、メール等で追って詳細ご相談したい。

(オブザーバー)

文化振興財団では中長期経営計画を策定しているが、その施策は市と財団でまとまりがあまりとれていない部分もあった。今回文化ビジョンを策定するにあたり、財団の中長期経営計

画も合わせたものにしてしようと考えている。文化ビジョンに合わせた具体的な施策展開を中長期経営計画に事業として謳い、ビジョンの推進を押し進めていきたい。

財団はもっと地域に足繁く通って、委員がおっしゃるシンガーソングライターの情報を得るべきだったが、これまではホール中心の事業展開をしてきた。昨年度から園田生涯学習プラザの指定管理者となり、園田地域ではプロの方と一緒にジョイントコンサートなどを実施した。また、昨年度は、中央や小田で21回アウトリーチ事業を実施した。財団として、生涯学習プラザで事業もするし、そこで活動している人の情報も収集する中で、例えばアルカイクホールの耐震改修が終わった時に、各地域でしている事業が年に一回アルカイクホールでできないか、と思う。皆さまの貴重な意見を伺う中で、財団内でも個々の事業の検討をしていきたいと思っている。

(委員)

この会議室に尼崎城のポスターがあるが、尼崎城には子どもを連れて一度も行ったことがない。何かイベントがあるかHPを見たが軽めのもが多く、わざわざこのために連れて行くには弱い。尼崎城はイベントに活用されているか。そういうのがあれば行って子どもを遊ばせたいな、と思う。

(オブザーバー)

天気のいい日は前の芝生広場で親子が自由にくつろいでいるし、HP掲載の風鈴づくりのイベントもある。お城北側の忍者公園には市内唯一の子ども向けジップラインがある。尼崎城から歩いて5分のところに歴史博物館ができており、セットで行くこともおすすめする。

(委員)

尼崎城でイベントをやったら面白いのに、と思う。マルシェや、路上ライブOKの特区内にしてライブするとか。

(オブザーバー)

尼崎城周辺は元々とても静かなところで周囲への音の配慮が必要である。

(事務局)

7月26日に開明庁舎であまままるしえや子どもの手型アートが開催される。

(委員)

うちにあまままるしえのチラシは置いてある。ただ、尼崎城、とは場所がつながらなかった。

(コーディネーター)

他の委員の皆さんも、そういうイベントになるべく参加しその感想等寄せていただくと次回以降の議論に厚みが出ると思う。

(事務局)

尼崎での音楽イベントは、コロナ禍で全滅したが、以前「あまがさき歴史音楽祭」を城内地区で開催した。高槻ジャズストリートや新開地音楽祭のようなイベントを開催することでまちに賑わいが生まれるのではないかと意図して実施した経緯がある。一方で行政での運営は継続が難しく、市民の皆さんと共に音楽祭を作り上げることができればと思っていたが、コロナ禍でなくなってしまい、アーティストの方の活動の場が失われてしまった。コロナ禍で活動ができなくなり困っている方がいたらその支援をする仕組みは作っていかねば、と思う。音楽祭のイベントが中止になりプレーヤーの方が切実な問題に直面している現状は聞いているので、そういう視点で関わっていけないかと考えている。

(コーディネーター)

2回目以降も様々なイベントとか行事については意見が出ると思うが、なるべくエッセンスを整理して文化ビジョンに反映していくよう作業を進めたい。

(事務局)

最後に、話題になっていた「みんなのサマーセミナー」は、市民の皆さまがセンセイになってものを教えることができる、学びを循環していくようなイベントである。コロナ禍で現場開催ができていなかったが、今年は8月6日・7日に市立尼崎高校で開催する。既にかかわっている方もいると思うし、まだという方はこれを機会に見ていただき、その中で自分も教えられるということがあれば来年は講師としてエントリーして、皆さんの活動を多くの人に知ってもらう機会となれば、市民の中で学びがまた生まれていくのでぜひご協力して欲しい。

最後は宣伝となったが、これで第1回文化ビジョン会議を終了する。